

令和7年度 新たに認定された農業土を紹介します

県では、優れた農業経営を実践し、地域農業の振興及び農村青少年等の育成に貢献している農業者を「農業土」として認定しています。令和7年度は石巻地域から青年農業土1名が認定されました。



NEW

青年農業土 今野裕貴さん
(地域: 東松島市 部門: 露地野菜)

今野さんは、平成30年に東松島市で就農、約1haの畠で露地野菜を生産しています。早朝に収穫したブロッコリーを「朝採りブロッコリー」として市場に出荷するなど、鮮度の高い野菜の生産に取り組んでいます。

現在、石巻地区4Hクラブ連絡協議会会長として活動されており、今後ますますの活躍が期待されています。

今年度で退任された農業土の方々に感謝いたします



指導農業土 佐々木文彦さん (地域: 石巻市 部門: 花き)

佐々木さんは、昭和53年に就農、輸ぎくやスプレー菊の生産を皮切りに、平成25年には「農事組合法人ビッグベリーランドパートナーシップ」を仲間とともに設立し、地域の転作作物を一手に引き受け、経営規模を拡大しながら、品質の高い米づくりに尽力されています。農業土として多くの研修生を受け入れるなど、石巻地域の農業・農村の発展に多大な貢献をされました。



指導農業土 佐藤雄則さん (地域: 東松島市 部門: 施設いちご)

佐藤さんは、平成16年の就農とともに、いちご栽培を開始、平成23年に震災で被災した若手農家4名で協力し「株式会社イグナルファーム」を設立、ミディトマトやいちごなどの生産に取り組み、地域農業の復興に尽力されました。

令和元年に指導農業土に認定され、多くの研修生を受け入れるなど、地域農業を担う人材の育成にも尽力されました。



青年農業土 松川孝礼さん (地域: 石巻市 部門: 繁殖牛)

松川さんは、平成20年に就農、黒毛和牛の繁殖を手がけられています。分娩間隔を短くするなどの効率的な経営を追求するため、家畜人工授精師の免許を取得し、その高い技術力を活かし、質の高い子牛の生産に尽力されています。

宮城県家畜人工授精師石巻支部の監事を務められたほか、令和3年には青年農業土に認定され、石巻地域の農業を盛り上げる活動にも貢献されました。



これを読めば 今がわかる

いしのまき普及センター通信 vol.166

Fukyu

特 集

異常気象(高温)への 対応に向けた 普及センターの取組

【トピックス】

- ▶石巻地区4Hクラブ連絡協議会視察研修会
- ▶みやぎRTK利用拡大コンソーシアムの取組
- ▶地域伝統野菜「河北せり」の出荷
- ▶みどり認定相談会

【お知らせ】

令和7年度新たに認定・退任された農業土の紹介

異常気象(高温)への対応に向けた普及センターの取組

施設野菜の高温対策

気候が高温となる梅雨明けから8月に栽培が行われる施設野菜品目では、トマトの着果不良やきゅうりの秋の樹勢低下といった課題があります。これらの主な原因是、ハウス内の温度が外気温よりもさらに高くなることであり、発生を減らすためには日射の光や熱を遮る資材を使用することが必要です。

普及センターでは、研修会等を通じて、鉄骨ハウスで近年推奨されている遮光、遮熱資材として「遮熱剤(のハウス屋根面への塗布)」、「白色の遮光ネット(をハウス屋根外側に張る)」、「細霧冷房装置」などの情報を提供しています。



スリムねぎ栽培における温度上昇抑制資材の導入推進

JAIいしのまきスリムねぎ部会では、令和6年度に国庫補助事業「高温対策栽培体系への移行支援事業」により、ハウス内の温度上昇を抑制する農業資材を導入し、その効果を検証しました。その結果、ハウス内の日中の気温を1°C ~2°C下げることが部会内で共有され、今年度は、昨年度に得られた結果を盛り込んだ「スリムねぎ栽培の手引き」を作成し、高温対策技術を部会内で共有するなど、品質の高いスリムねぎを、出荷量を落とさずに生産できる部会員の増加を目指しています。



水田の「飽水管理」徹底を呼びかけ

6月中旬以降の記録的な高温と少雨により、管内では一部で用水不足が発生。7月29日に出穂期を迎え、高温による品質の低下が懸念されました。

このため、稻作情報や節水を呼びかけるチラシを発行し、高温時の品質低下を防ぎ、節水にもつながる「飽水管理(田面の湿潤を保つ技術)」の徹底を呼びかけました。また用水の塩分濃度の確認なども実施しました。

7月31日には、「石巻地方農作物異常気象対策連絡会議」を開催し、関係機関で気象経過や農業用水、農作物の状況、今後の技術対策等の情報を共有しました。



大豆の畝間かん水、地下かんがい

大豆は、播種期の少雨により出芽揃いの悪いほ場が散見されたほか、出芽後も高温で降水のない日が続き、生育が抑制されました。

このため、現地検討会や大豆情報を通じて、暗渠の水閘を閉じて地下水位を維持することや、適切な中耕培土や畝間かん水の実施等による乾燥対策を指導しました。

その結果、畝間かん水や地下かんがいでの水分補給を実施する事例が見られました。8月以降は降雨があり、生育は回復しています。



農作業安全確認運動「徹底しよう!農業機械の転落・転倒対策」 ・危険箇所の確認・改善　・危険回避行動

いしのまき管内のトピックス～現地活動の紹介～

石巻地区4Hクラブ連絡協議会 視察研修会が開催されました

令和7年6月24~25日、石巻地区4Hクラブ連絡協議会の視察研修が行われ、福島県会津若松市にある株式会社社会津畜産を訪問し、食肉用の馬の飼育から加工、販売までを一貫して行う先進的な経営について学びました。

同社直営牧場では、常に250~300頭の馬が飼育されており、佐藤代表取締役から、肥育牛から肥育馬への事業転換や、おいしい馬肉を育てる独自の技術確立までの経緯について説明をいただきました。

参加したクラブ員たちは、自分たちの地域とは異なる革新的な農業経営のあり方を目の当たりにし、「農業は工夫次第でさまざまな可能性がある」と感嘆の声を上げていました。



みやぎRTK利用拡大コンソーシアムの 実証試験を行いました

石巻管内では令和6年から7年にかけて桃生でRTKを活用した大容量ブームスプレーヤによる乾田直播栽培の除草剤散布の実証試験を行いました。



実証機械は、タンク容量が慣行の約2.5倍の1600L、散布幅も21mと大型機械を使用し、散布時には、人工衛星を利用して、重複散布を防止する「セクションコントロール」機能を有しており、最小限の散布量で作業が可能となっています。試験は2haの水田で行い、作業速度は慣行の1/2の36分となり、作業の効率化が実証されました。

石巻地域は乾田直播の取組面積が約1500haと県内最大で、大規模な栽培面積を適期に管理するために、RTKによるスマート農業技術が不可欠です。

いしのまき地域の伝統野菜 「河北せり」の出荷が始まっています

「河北せり」は石巻市河北地区の伝統野菜として江戸時代から栽培が始まり、生産方法と気候風土が品質の特性に結びついた产品として認められ、青果物で県内初のG I(地理的表示)登録されています。



普及センターでは、農園研と連携し、現地検討会等でほ場巡回を行い、技術指導を行ってきました。

今夏は高温による影響が心配されました。生育は順調で、11月から収穫がはじまり、地元道の駅「かほく上品の郷」の他、宮城県内の各量販店で「河北せり」として販売されています。ぜひ御賞味ください。

みどり認定・まるわかり相談会が 開催されました

令和7年8月12日、26日に東部地方振興事務所農業振興部の主催により、石巻合同庁舎で「みどり認定・まるわかり相談会」を開催しました。

みどりの食料システム法による「みどり認定」は、令和9年度を目標に環境保全型農業直接支払交付金の要件とすることが検討されています。

本相談会では、「みどり認定」の概要、認定までの流れ、取得することによるメリットや申請書の書き方などの詳しい説明のほか、参加者からの質問に個別に答える相談も行われました。参加者にとっては、疑問点が解消され、「みどり認定」への理解が深まる機会となりました。



宮城の普及ブログが新しくなりました▶

